

## [底生動物]

### 1. 調査概要

#### (1) 調査目的

釣川水系における現在の底生動物分布状況を調査し、各調査ポイントの自然環境を把握するとともに、生物学的水質判定を行い、前回の基礎調査結果と照らし合わせてその地点の環境変化を調べる。これらの結果に基づき環境評価を行い、また変化の要因の考察を通して地域の評価区分を行う。

#### (2) 調査地

調査ポイントは、以下に示す釣川本流の4ポイント、12支流それぞれの源流部もしくはその近辺のポイント、計16ポイントとした。各ポイントは、データの比較を行うためこれまでの調査ポイントと重なるように設定した(図9-1)。

○釣川本流:源流部(メッシュ地図のNo30)、太郎坊橋(同No68)、田久橋(同No66/56)及び東郷橋(同No63/64)

○釣川支流:猿田川(メッシュ地図のNo40)、宮川(同No69)、石井川(同No59)、名残川(同No47)、朝町川(同No16)、綿打川[朝町川の支流](同No15)、大穂川[朝町川の支流](同No13/04)、八並川(同No42/32)、山田川(同No95/96)、横山川[山田川の支流](同No93)、大谷川(同No91/80)及び樽見川(同No13)の源流部もしくはその近辺

#### (3) 調査方法

前回の基礎調査の方法(Beck-Tsuda法の $\beta$ 法を小河川用にアレンジしたもの)を踏襲した。採集した標本は現地で固定し、研究室にて分類・同定した。これまでの資料や文献により種までの分類が困難なものは、科、族、属または類として表示した。ユスリカについては、セスジユスリカとその他(ユスリカ科)として表示した。なお、釣川水系におけるユスリカは、これまで10種程度同定されている。

今回は、底生動物調査時に水質調査用のパックテスト(共立理化学研究所製試薬)のうちpH、COD、アンモニア、亜硝酸、硝酸、リン酸、残留塩素及び大腸菌の8項目についても実施した。